

琉球大学学術リポジトリ

資料等

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2021-12-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41367

編集後記

西本 裕輝（大学教育センター）

実施二年目となる今年度の URGCC の最大の課題は、学習達成度をどう測定するか、どう評価するかということである。第1部ではそのための試みの一つとして、今回はラーニング・ポートフォリオを取りあげている。

もちろん、ラーニング・ポートフォリオだけが、学習到達度を把握する唯一の手法ではない。そして、全学で一斉に導入するというのも現実的には難しい。しかしながら本号では、先進的に導入されている先生方に報告をお願いした。これによって到達度評価の選択肢が少しでも広がることを願っている。

第2部は、URGCC の導入とともに整備された「学士教育プログラム」を単位として質保証の取組について報告である。早くもプログラム単位でのさまざまな取組が成果を出し始めていると言える。大学教育センターにおいても、そうした動きは大いに歓迎すべきものであるし、予算面も含め可能な限り支援をしていく予定である。

第3部は毎年恒例のプロフェッサー・オブ・ザ・イヤー受賞者による教育実践の報告である。実はこちらも URGCC に大いに関係する。毎年の受賞者を見ると、URGCC が掲げている理念に合致する教育実践を行っている教員が選ばれているように感じる。例えば、URGCC が掲げている「自律性」や「問題解決力」「コミュニケーション・スキル」であるが、受賞している講義を見ると、学生と双方向の意見のやり取りをし、学生にじっくり考えさせて自らの意志で結論を導けるように意図されたものが多いと言える。こうしたことからすると、今後 URGCC を推進していく上で大いに参考となる教育実践であるし、そもそも受賞者を選ぶのは学生であることから、学生側もそうした教育を望んでいるということにもなる。そうした URGCC 成功のヒントが詰まっている報告と言える。

本センター報を通して、ますますの教育の深まりを期待するものである。